

5 市町村に対する財政調整的視点での支援

■ 森林づくり推進支援金 ⑯

令和3年度 森林づくり推進支援金 事業実績一覧表

長野 地域振興局

市町村名	No.	事業 項目 番号 (※)	事業名	事業費 (千円)	負担内訳		備考
					支援金 (千円)	その他 (千円)	
長野市	1	1	松くい虫被害防除事業	3,666	2,700	966	
	2	3	緩衝帯整備事業	5,260	3,738	1,522	
	3	3	広葉樹林造成モデル事業	1,606	300	1,306	
	計		3件	10,532	6,738	3,794	
須坂市	1	1	松くい虫被害防除事業	869	868	1	
	2	2	間伐材利用の促進事業	632.5	625	7.5	
	計		2件	1,501.5	1,493	8.5	
千曲市	1	2	公園等における木製ベンチの導入	400	398	2	
	2	3	協働による森林づくり事業	100	100	0	
	3	3	里山景観整備事業	540	540	0	
	4	3	森林公園整備事業	495	495	0	
	計		4件	1,535	1,533	2	
坂城町	1	1	坂城町里山景観整備事業	459	459	0	
	2	1	坂城町森林景観整備事業	330	311	19	
	計		2件	789	770	19	
小布施町	1	3	野生鳥獣の被害防止にかかる緩衝帯整	469	469	0	
			1件	469	469	0	
高山村	1	1	松くい虫被害木駆除事業	353.5	250	103.5	
	2	3	村内緑化事業	115.5	86	29.5	
	3	3	緩衝帯整備事業	825	482	343	
	計		3件	1,294	818	476	
信濃町	1	2	ウッドスタート事業	646	646	0	
	計		1件	646	646	0	
飯綱町	1	3	野生鳥獣の緩衝帯整備(倉井地区)	706.2	631	75.2	
	計		1件	706.2	631	75.2	
小川村	1	2	木製バス停製作事業	894.3	575	319.3	
	計		1件	894.3	575	319.3	
			18件	18,367.0	13,673	4,694.0	

※) 事業項目番号

- 1 : みんなの暮らしを守る森林づくり
- 2 : 木を生かした力強い産業づくり
- 3 : 森林を支える豊かな地域づくり

令和4年度 森林づくり推進支援金 事業計画一覧表

長野 地域振興局

市町村名	No.	事業 項目 番号 (※)	事業 名	事業費 (千円)	負担内訳		備考
					支援金 (千円)	その他 (千円)	
長野市	1	1	松くい虫被害防除事業	2,805	2,700	105	
	2	3	緩衝帯整備事業	7,966	3,855	4,111	
	3	3	広葉樹林造成モデル事業	2,200	300	1,900	
	計		3 件	12,971	6,855	6,116	
須坂市	1	1	松くい虫被害防除事業	869	868	1	
	2	2	間伐材利用の促進事業	646.8	619	27.8	
	計		2 件	1,515.8	1,487	28.8	
千曲市	1	1	松くい虫被害防除対策事業	500	470	30	
	2	3	協働による森林づくり事業	300	300	0	
	3	3	里山景観整備事業	780	780	0	
	計		3 件	1,580	1,550	30	
坂城町	1	1	坂城町里山景観整備事業	459	459	0	
	2	1	坂城町森林景観整備事業	302	302	0	
	計		2 件	761	761	0	
小布施町	1	3	野生鳥獣の被害防止にかかる緩衝帯整	398	398	0	
	2	2	間伐材利用のベンチの設置	88	88	0	
	計		2 件	486	486	0	
高山村	1	1	松くい虫被害木駆除事業	759	250	509	
	2	3	村内緑化事業	104	86	18	
	3	3	緩衝帯整備事業	825	504	321	
	計		3 件	1,688	840	848	
信濃町	1	2	ウッドスタート事業	1,029	654	375	
	計		1 件	1,029	654	375	
飯綱町	1	3	野生鳥獣の緩衝帯整備(倉井地区)	706.2	580	126.2	
	計		1 件	706.2	580	126.2	
小川村	1	2	薪ストックヤード設置事業	2,109.5	647	1,462.5	
	計		1 件	2,109.5	647	1,462.5	
			18 件	22,846.5	13,860	8,986.5	

※) 事業項目番号

- 1 : みんなの暮らしを守る森林づくり
- 2 : 木を生かした力強い産業づくり
- 3 : 森林を支える豊かな地域づくり

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害防除事業
事業費 3,666,911 円 (うち支援金: 2,700,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害量は依然として多く森林環境に悪影響を及ぼしていることから、森林の健全な育成と景観形成の保全のため、早急の対応を必要としている。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の補助対象外の松くい虫被害木駆除を行い、地域課題の解消と景観形成の整備を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 市内松林所有者

(3) 実施方法 松くい虫被害木駆除 (伐倒、薬剤処理等)

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

松くい虫被害木駆除 (伐倒、薬剤処理) 900 m³

② 令和 3 年度実績

松くい虫被害木駆除 (伐倒、薬剤処理) 91.452 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

当年度内に被害木を処理することによって、次年度の被害拡大を防止できる。

(2) 継続性

松くい虫による被害が軽減されるよう継続して被害木駆除を行い、被害の拡大防止を図る。

(3) 普及性

地道に松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害が早期に終息へ向かうよう努める。

被害木駆除を実施することで、松くい虫被害対策のPRを地域住民に対し行うことができ、緑豊かで健全な森林を広めることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林づくり推進支援金で実施する被害木駆除では駆除残の処理を行うことができ、被害の拡大防止を図れている。

(2) 課題

市内に広く散在するその他松林において松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害の拡大に被害木処理が追いついていない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

既存の対策事業で賄えない駆除残の被害木処理を引き続き実施し、被害の拡大防止を図る。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	長野市
------	-----

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 5,259,545 円 (うち支援金 : 3,738,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中山間地域の高齢化の加速や森林利活用の減少により、里山周辺に人の手が入らなくなった荒廃森林等が増え、野生鳥獣の出没が頻発している。野生鳥獣との共生を図るためには、環境整備を実施し、森林育成等も講じるとともに、人と野生鳥獣の棲み分けを図っていくことが重要である。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

手入れの遅れている里山エリアで伐採等(緩衝帯)の森林整備を進めることにより、本市において増加している野生鳥獣による農業被害や人身被害を防止する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 里山に隣接する地域等の住民

(3) 実施方法 市内の集落・農地周辺の森林、耕作放棄地(林地化した非農地)において間伐等の森林整備を行い緩衝帯として整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 年度～令和 4 年度)

平成 30 年度 市内 18 箇所 5.22ha

令和元年度 市内 20 箇所 3.47ha

令和 2 年度 市内 17 箇所 2.01ha

令和 3 年度 市内 8 箇所 4.40ha

令和 4 年度 市内 20 箇所 6.5ha(見込)

②令和 3 年度実績 市内 8 箇所 4.40ha



若穂保科八幡区



若穂保科在家区

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

集落周辺に存在する身近な里山を、緩衝帯機能を持った森林として間伐等の整備することにより、野生鳥獣の出没と被害を抑制する。また、地域住民の森林に対する関心を高めるとともに、維持管理作業を行いながら地域で取組む里山整備の推進に結びつけていく。

(2) 継続性

事業実施後の緩衝帯は、長野市緩衝帯維持管理支援事業補助金を活用するなど、地域住民の手により、緩衝帯機能の維持が図られている。緩衝帯整備による野生鳥獣に出没抑制効果を実感し、地域住民自らが森林整備を実施するなど効果が表れてきている。

(3) 普及性

緩衝帯整備を実施した地域だけでなく、周辺の地域でも野生鳥獣の出没や目撃が減少するなどの好影響が出てきている。周辺地域でも、緩衝帯整備に対する要望が増加してきており、事業効果に期待が寄せられている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

野生鳥獣による農作物等の被害が発生している地域で、4.40haの緩衝帯整備を行い、農地及び集落周辺の里山環境整備によって、クマ及びイノシシ等野生鳥獣の出没件数が減り、農作物被害が減少している傾向にある。令和4年度も、電気柵との併用を推進しつつ、緩衝帯(里山)整備事業実施の地域要望に応えるべく事業を継続していく。

(2) 課題

里山環境整備により、事業実施地域での出没件数及び農作物被害は減少傾向にあるが、未整備地域では何ら変化はない。また、野生鳥獣の根本的な個体数調整も必要ではないかと考える。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	広葉樹林造成モデル事業
事業費 1,606,000 円 (うち支援金: 300,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を確立することで、森林所有者の主伐後の選択肢を増やす。

(2) 本事業の目的

天然更新した森林を育成天然林施業のモデル林として継続的に活用する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 門沢・上ヶ屋・田野口・小鍋モデル林 約 3.0ha

(2) 対象者 市内森林所有者

(3) 実施方法

- ・市営林を皆伐し、広葉樹林化へのモデル林を設置。
- ・研究機関と連携し、広葉樹林を造成するための調査研究を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 6 年度)

・モデル林 4 調査箇所を設置し、皆伐後の保育や更新の継続した調査の実施

②令和 3 年度実績

・調査業務委託

- －伐採前の、森林の状況調査や伐採方法の提案
- －保育手法の検討、データ整理等



上ヶ屋調査区



田野口調査区

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を確立することで、森林所有者の主伐後の選択肢を増やす。

(2) 継続性

天然更新した森林を育成天然林施業のモデル林として継続的に活用する。

(3) 普及性

「森づくりワークショップ inながの」等の市民参加型のイベントを通じ、事業のPRを行う。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和3年度も今後検討していくうえでの基礎的調査を行い、調査区内の木本類等の整理・特徴が正確に調査されていた。

(2) 課題

この先も引き続き調査を実施していくものであり、更新樹種選定まではしばらく時間がかかる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

更新判定を行う令和6年(2024年)まで調査を引き続き実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	須坂市
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害木駆除事業
事業費		869,000 円 (うち支援金: 868,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が拡大し、森林の環境に悪影響を及ぼしていることから、森林の健全は育成と景観形成の保全のため、早急の対応を必要としている。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の補助対象とならない松くい虫被害木を駆除し、景観形成を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内全域 (居住地周辺を主体に実施)

(2) 対象者 地域住民及び松林所有者

(3) 実施方法 松くい虫被害木の伐倒駆除及び破砕処理

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

被害木の処理 40 本程度/年 × 5 年間

②令和 3 年度実績

被害木の処理 28 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の蔓延防止と森林の健全化。

(2) 継続性

松くい虫被害蔓延防止のため、防除対策を継続していくことが重要。

(3) 普及性

松枯れは見た目にも悪く、倒木の恐れもあることから、駆除することで普及効果は極めて高い。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

公園等の準公共施設の松くい虫の蔓延防止及び景観の維持を図ることができた。

(2) 課題

松くい虫被害の全容を把握し、被害木の適期駆除を徹底させるため、地域住民を巻き込んだり、被害木の早期発見に傾注する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公園等の準公共施設の松くい虫の蔓延防止のため、同程度の事業規模で継続したい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

須坂市

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	間伐材利用の促進事業
事業費		632,500 円 (うち支援金: 625,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当市の森林の現状として、その多くが木材資源として利用可能な時期に達しており、林業は育てる時代から伐って使う時代へと移ってきていることから、地域での間伐による森林整備とその利活用が大きな課題である。

(2) 本事業の目的

- ・坂田山共生の森において、作業道の路面流水による流出防止のために必要な予防治山として、間伐材を利用した「路面水切工」を設置し、流量や流速の分散を図る。
- ・搬出間伐の促進と間伐材を利用し製作したベンチを公共施設等に設置することで、広く一般にPRする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂田山共生の森の作業道、公共施設

(2) 対象者 地域住民と一般市民

(3) 実施方法

- ・治山事業に伴う間伐材を活用した「路面水切工」設置
- ・公共施設への間伐材ベンチの設置

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

- ・間伐材を活用した「路面水切工」設置 6 箇所
- ・間伐材ベンチ設置 2 箇所 / 年 × 5 年

②令和 3 年度実績

- ・間伐材を活用した「路面水切工」設置 5 箇所
- ・間伐材ベンチ設置 8 箇所



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・ 県産材間伐材を活用した「路面水切工」を設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。
- ・ 間伐材ベンチに開設パネルを併せて設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。

(2) 継続性

- ・ 山地災害による被害を防止・軽減する予防治山としての間伐材を利用した路面流水による流出防止のため「路面水切工」の設置は継続する。
- ・ 間伐材ベンチを継続的に設置することで、間伐材の活用事例を直接かつ継続的に市民にPRすることができる。

(3) 普及性

- ・ 坂田山共生の森を市民等が利用する際、直接目にするため、県産材間伐材の利用拡大に向けた普及効果は極めて高い。
- ・ 間伐材ベンチを利用することで、木のぬくもりを直に感じることができ、県産材利用の拡大に向けた普及効果は期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

県産材間伐材を活用した「路面水切工」を設置することで、降雨による流出防止に効果を発揮した。

公園等に設置した間伐材ベンチに開設パネルを併せて設置することで、公園利用者へ間伐材活用のPRができた。

(2) 課題

地域での間伐による森林整備の促進と間伐材の木材利用推進が課題であり、地域材の活用方法を周知し利用拡大につなげることが課題。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	市が管理する公園等における木製ベンチの導入
事業費		400,000円 (うち支援金: 398,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市有林の間伐を進める時期となっているが、費用が高むことと木材価格の低迷により計画どおり進まないのが課題である。

(2) 本事業の目的

県産材を利用した木製ベンチを市営施設に設置し、市民等に対して県産材の普及・啓発を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内バス停 5 基 (千曲市ふれあいセンター、ひまわり前、森北中之宮公会堂、展望台下)

(2) 対象者 地域住民

(3) 実施方法

間伐材を利用したベンチを作成し市内の公園等施設に設置をする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 4 基×5 年=20 基

②令和 3 年度実績

5 基 (松くい虫被害木を活用)



くつろぎベンチ

このベンチは長野県森林づくり県民税(森林税)活用事業により松くい虫被害材を使用し製作しました。材料は千曲市桑原の林道佐野山線沿いのアカマツで、松くい虫により枯れた木を製材しベンチにしました。

くつろぎベンチで、善光寺平や棚田の風景を見ながら、どうぞゆっくりおくつろぎ下さい。

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害木の有効活用を図ることができた。

(2) 継続性

市内の施設に計画的に設置できた。

(3) 普及性

設置したベンチが被害木を利用したものと分かるよう看板を設置しPRを行なった。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

市内の循環バスの停留所に松くい虫の被害木を利用した木製ベンチを5基設置した。

(2) 課題

- ・被害木について搬出し易い箇所を選定しないと製作費用が高んでしまう。
- ・製材に適した被害木の選木が必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害木を活用したベンチ 5基

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市
------	-----

No.	事業項目	事業名
2	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	千曲市森林づくり推進支援金活用事業（協働による森林づくり事業）
事業費		100,000円（うち支援金：100,000円）

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の高齢化や若者の関心の低さが関していると思われるが、手入れが行き届いておらず、森林の荒廃化が進んでいる。

(2) 本事業の目的

市内団体等の主体により、市町村を超えた呼びかけによる森林整備活動を通じて広く森林の多面的役割や森林整備の必要性に対する啓発を図り、理解を深める。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 林業研究グループ、NPO法人等による市民参加の森林体験活動に取り組む団体

(3) 実施方法

林業研究グループ、NPO法人等による市民参加の森林体験活動について、必要物資・活動経費の補助を行う。なお、1 団体あたりの補助金額は 100,000 円を上限とする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

30 万円×5 年＝150 万円

②令和 3 年度実績

10 万円



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

林業関係団体の育成と、市町村を超えた市民等に対し森林に対する啓発を図ることができた。

(2) 継続性

本事業を契機として、「県民協働による里山の整備利用事業」の活用も検討するなど、今後も継続した里山整備活動が期待される。

(3) 普及性

活動内容をホームページや機関誌に掲載するなど、広報も活発であり、広い範囲での認知が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

1 団体が実施し、市内中学校とも連携し、地元の里山や山城について学習したり、下草刈りや伐倒・玉切りなどの森林体験を実施することにより、里山の大切さや林業への関心を喚起できた。

(2) 課題

新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、取り組む団体の増加が図れていない。
広報等に力を入れているが、参加者もっと広域的に広がるような取り組みに苦慮している。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今年度実施団体が引き続き事業を実施する見込み。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市
------	-----

No.	事業項目	事業名
3	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	千曲市森林づくり推進支援金活用事業（里山景観整備事業）
事業費		540,000円（うち支援金：540,000円）

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の高齢化や若者の関心の低さに関していると思われるが、手入れが行き届いておらず、森林の荒廃化が進んでいる。

(2) 本事業の目的

里山の景観・森林機能向上や野生鳥獣被害対策を目的として、森林造成事業で補助対象とならない里山の竹林整備・藪払い等の森林整備について補助を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 森林整備に取り組む団体等

(3) 実施方法

下刈り・竹林整備・藪払い等の作業について、労務費（1人1日あたり 6,000 円）の補助を行う。なお、1 団体あたりの補助金額は 60,000 円を上限とする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

78 万円×5 年＝390 万円

②令和 3 年度実績

54 万円（9 団体）



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

里山景観の向上・野生鳥獣被害の軽減が図られるとともに、市民自ら作業することにより、森林への関心を高めることができた。

(2) 継続性

事業を実施する山林のほとんどが1年では整備できない為、毎年市民の方に作業してもらうことにより市民の団結や森林への関心が高まった。

(3) 普及性

実施場所の中には市民の目に届く場所もあるため、本事業に関して興味を持ってもらえた。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

9団体が施業を行い、延べ人数361人により、合計8.2haの里山の整備が行われた。

(2) 課題

- ・施業内容が対象要件に合致しなかったことから、応募の時点で事業内容の精査を行う必要がある。
- ・コロナ禍でも事業継続または新規実施してもらえる仕組みづくり。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

ほとんどの団体が引き続き事業を実施する見込み。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

千曲市

No.	事業項目	事業名
4	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	千曲市森林公園整備事業
事業費		495,000円 (うち支援金: 495,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域活性化を目的に整備された公園及び周辺森林の管理が不十分で、公園利用者から眺望の障害、樹冠が鬱閉することによる閉塞感を訴えられている。

(2) 本事業の目的

公園内及び周辺の森林整備を行い、公園利用の快適化を図るとともに利用者の増加、地域活性化、県民の森林に親しむ機会を増進する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 大田原マレットゴルフ場・大池市民の森

(2) 対象者 一般住民(公園利用者)

(3) 実施方法

林業事業体に委託して、公園内及び公園周辺の森林整備を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和 2 年度～令和 4 年度)

50 万円×3 年=150 万円

②令和 3 年度実績

49.5 万円



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

森林整備により公園利用者の快適性の向上が図られ、利用者の増加によって地域が活性化された。また、県民の森林に親しんでいただく機会が増進にされた。

(2) 継続性

5年または10年ごとに事業の実施が必要。

(3) 普及性

公園利用者に快適な森林環境に浸っていただくことで、森林と触れ合う機会が増進され、県民税を活用した森林整備への理解が促進された。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

鬱閉した閉塞感から解放されたことで眺望性が向上した。

(2) 課題

対象範囲が広大なため完了まで時間(複数年)がかかる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

予算の範囲内で実施

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	坂城町
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町里山景観整備事業
事業費 459,000円 (うち支援金: 459,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・松くい虫による被害が継続している。
- ・危険木がライフライン保全に影響をきたし、風倒木の発生により里山の景観を悪化させている。
- ・里山における広葉樹等の整理伐採が急務となっている。

(2) 本事業の目的

- ・被害木処理を行い、被害蔓延を防ぎ、地域の森林づくりを推進する。
- ・危険木等の処理を行い、景観向上及びライフラインの保全を行う。
- ・整理伐採が必要な広葉樹等を伐採し、森林の健全な保全管理を行い、伐採した木材は、きのこの原木材として有効活用する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂城町大字坂城、大字上平 大字中之条

(2) 対象者 町内の団体及び区

(3) 実施方法 松くい虫被害木の処理、景観及びライフラインへの危険木等の除去、広葉樹林の整理伐採等に要する経費を助成する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

・被害木 100 本 ・危険木 20 本 ・広葉樹林の整理伐等 50 m³

②令和 3 年度実績

3 団体 ()

(被害木処理 20 本、危険木 24 本、広葉樹林の整理伐等 18.9 m³)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫の被害木の処理を行うことで、蔓延を防ぎ、森林の健全化を図り、土砂災害を防ぎ、水源の涵養機能の維持増進につなげる。また、危険木等を除去することで、ライフライン等を保全し、里山の景観を向上させることができる。

伐採した木材をきのこの原木として利活用することで、森林資源の有効活用ができる。

(2) 継続性

地域住民が参加することによって、自らの里山を守る自覚が促され、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

松林の健全化により、景観の保全と松茸の産出で事業の効果が県民に対し視覚的に確認できる。また、ライフライン沿いの危険木等の除去により安全が確保される。

地域の里山で伐採された原木を利用した、きのこを販売することで県民に対し効果をアピールする

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和3年度は、被害木20本の処理計画に対し、20本の実績となった。また、危険木等の処理10本の計画に対し、24本の実績となり、計画を達成した。広葉樹等は10^mの整理伐採計画に対し、18.9^mの実績となり、地域住民の積極的な参加による景観整備が進んでいる。

(2) 課題

昨年同様、松くい虫被害は継続しており、さらなる地域住民の参加が、望まれる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

平成30年度から令和4年度の5年間で、広葉樹等の整理伐採計画については、50^mの計画に対し、令和3年度は18.9^mとなり、計画を達成した。また、危険木等の処理についても令和3年度に24本の処理となり20本の計画を達成している。松くい虫被害木処理については100本の処理計画に対し、令和2年度に計画数量を達成している。

全ての計画数量は達成したものの、松くい虫被害は継続しているため事業継続していく。危険木処理・広葉樹の整理伐採についても、ライフライン保全や里山の整備という観点からも事業継続の必要がある。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和3年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	坂城町
------	-----

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町森林景観整備事業
事業費 330,000円 (うち支援金: 311,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の公園となっている里山において、伐倒・くん蒸処理後の松くい虫被害木の枯損木が放置されており、ウォーキングする住民の安全への不安や景観の悪化を招いている。

(2) 本事業の目的

枯損木を搬出し、チップ化することで適正な処理を行うことで、里山の景観保全、遊歩道の安全確保を図る。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂城町大字網掛

(2) 対象者 坂城町

(3) 実施方法 現場から松くい虫被害木の伐倒駆除・くん蒸処理後の枯損木を搬出し、工場 でチップ化する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成30年度～令和4年度) ・5 m³/年×5ヶ年=25 m³

②令和3年度実績 ・6 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

森林の景観保全と林内の安全確保とともに、枯損木のチップ化で森林資源を循環的に活用することが可能となる。

(2) 継続性

地元の里山整備を地元業者に委託することで、関心も高まり、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

枯損木を撤去することで、森林景観を保全する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和3年度は、くん蒸処理後の枯損木搬出5 m³の計画に対し、6 m³の実績となり、計画を達成した。

(2) 課題

くん蒸処理後の枯損木は、町内のいたるところに存在しており、景観悪化につながっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

令和3年度は、計画を超える6 m³の処理を実施したが、里山を中心に今後も引き続き実施して行く。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小布施町
------	------

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の被害防止にかかる緩衝帯整備
事業費		469,000 円 (うち支援金: 469,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

高山村や中野市との境にある雁田山は、山麓が集落等と隣接しているため、地域の人々の生活に深くとけこんでいる。しかし、近年、林業の衰退及び急傾斜地であることから間伐などの森林整備がほとんど行われなくなってしまう集落等に野生鳥獣が出没することがある。

(2) 本事業の目的

雁田山の健全な森林環境を保全するとともに、野生鳥獣と農村集落の共存・共栄のため、緩衝帯を設けるとともに里山を整備することを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小布施町雁田地区

(2) 対象者 地域住民、事業者

(3) 実施方法 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域住民が一堂に集まる緩衝帯づくりは実施せず、傾斜地等で住民の手では実施が困難な箇所については予定どおり業者に委託して実施した。また、地域住民で実施してきた箇所においても新型コロナウイルスの影響で 2 年間実施することができなかったことにより下草が成長してしまっているためその箇所についても一部を委託して実施する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~令和 4 年度) 緩衝帯整備 距離約 1,500m(各年度 300m) 幅 15m

②令和 3 年度実績 距離約 600m、幅 15m



(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

野生鳥獣が身を隠せる下草を伐採することで、集落等に出没しづらくなる。森林整備を近隣住民自らが行うことにより、森林に対する意識が向上する。

(2) 継続性

近隣住民による緩衝帯整備は、平成16年度から継続して毎年実施している。下草が3～5年程度で成長してしまうため、同程度のサイクルで事業箇所を変更し実施していく。

(3) 普及性

雁田山麓には遊歩道も整備されているが、ウォーキングやランニング等で利用する住民も多い。また、岩松院や浄光寺といった町内有数の観光スポットもあり、観光客も多く訪れている。緩衝帯整備により下草を刈ることで、森林景観も良くなり、広く事業効果を普及することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた地域住民の皆さんをはじめとした住民ボランティアによる緩衝帯整備づくりは実施できなかったが、例年行っている傾斜地等で住民の手では実施が困難な箇所に加えて、新型コロナウイルスの影響で2年間実施できなかった地域住民で行ってきた箇所についてもその一部を業者委託することによって、森林の奥まで見通しが良く、景観的にも良い森林環境づくりを一体的に行うことができた。

(2) 課題

- ・地域住民等と一緒にやる緩衝帯整備づくりについては、農作物の収穫期前の整備がより効果的なため、実施の時期は地元自治会と協議の上決めていきたい。
- ・放っておくとすぐに下草が繁茂してしまうため、継続的な実施が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年々、地域住民の山林に対する意識が向上してきていると考えられる。防護柵による侵入防止対策と組み合わせることにより、有害鳥獣による農作物の被害も軽減される。今後も継続して里山を地域住民と行政一体となって整備していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	高山村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害木駆除事業
事業費 353,538円		(うち支援金: 250,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が増加し、森林の環境に悪影響を与えていることから、森林の健全な育成や森林景観を保全するため、松くい虫被害防除を行う必要がある。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の対象とならない森林以外の箇所の松くい虫被害木を駆除し、景観の向上を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 森林以外 (公園等) の松林

(2) 対象者 松林所有者

(3) 実施方法 森林以外の松くい虫被害木の伐倒及び破砕処理を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 平成 30 年度～令和 4 年度 $15 \text{ m}^3 \times 5 \text{ 年} = 75 \text{ m}^3$

②令和 3 年度実績 8.71 m^3



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害蔓延の防止。森林の健全化。

(2) 継続性

松くい虫被害蔓延の防止。森林の健全化。

(3) 普及性

目立つ被害木の駆除により良好な景観が形成でき、今後の被害拡大防止に繋がっている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林以外の松くい虫被害木の伐倒及び破碎処理ができ、景観の向上に繋がっている。

実施材積 特殊破碎 8.71 m³ 実施本数 10 本

(2) 課題

全体計画(平成30年度～令和4年度)では、15 m³を計画しているが、今後、森林以外の箇所にも松くい虫被害木が蔓延する恐れがある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

森林以外の箇所にも松くい虫被害木が蔓延する恐れがあることから、今後25 m³程の材積を見込む必要がある。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	高山村
------	-----

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	村内緑化事業
事業費 115,500円 (うち支援金: 86,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

村民の憩いの場や子どもたちの遊び場として区集会場や公園緑地が必要であり、区集会場や公園緑地に緑化木を植栽し、自然環境と人との豊かなふれあいの場を図る必要がある。

(2) 本事業の目的

景観の維持向上を図るため、各地区区長へ希望苗木を募り、村民自らが行う緑化活動の促進を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 区集会場敷地及び公園緑地等

(2) 対象者 村民

(3) 実施方法 各地区区長へ希望苗木を募り、集会場等の敷地内に緑化木を植え緑化活動を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～令和 4 年度)

令和 2 年度 大山桜、アジサイ等の苗木 77 本を配布。

令和元年度～4 年度 ドウダンツツジ等の苗木 100 本を配布。

②令和 3 年度実績 大山桜、ヤマツツジ等の苗木 80 本を配布



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

村内の緑化。住民の山林に対する意識の向上。森林税のPR

(2) 継続性

景観の維持向上及び緑化推進が図られる。

緑化活動が進み、森林等への関心が高まっている。

行政地区単位で、緑化推進活動への関心が高まっている。

(3) 普及性

区集会場敷地及び公園緑地等に、緑化木が増えつつあり、景観の維持に繋がっている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

区集会場敷地及び公園緑地等に、緑化木が増えつつあり、景観の維持に繋がっている。

実施自治区 7区

緑化木苗木 大山桜 10本・山ツツジ 10本・ドウダンツツジ 2本・アジサイ 27本
クロモジ 10本・ガクアジサイ 6本・ハナモモ 11本・
ジンダイアケボノサクラ 4本 合計 80本

(2) 課題

全自治区 26区がこぞって苗木を植えることで、緑化活動が盛んになり、景観の向上及び緑化推進に繋がるが、毎年 10区程の希望苗木の要望しかないことから、自治区全体で気運を盛り上げる必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

毎年、緑化木を植えている区及びそれ以外の区に対して、緑化活動の大切さを周知する。

事業費 116千円

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

高山村

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 825,000円 (うち支援金: 482,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

有害鳥獣による農作物被害が増加しており、対策として有害鳥獣の捕獲や電気柵を設置し防除対策の強化を図っている。村内の恒久電気柵の距離は 27,496mあり、地域で電気柵の維持管理を行っている状況だが、高齢化の進行や人口減少に伴い、電気柵の維持管理作業が年々厳しくなっている状況にある。

(2) 本事業の目的

有害獣の被害防止にかかる緩衝帯整備を実施する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 高山村大字高井字水沢原・滝ノ入

(2) 対象者 周辺農地の耕作者

(3) 実施方法 電柵進入路の刈払いを行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 令和 2 年度 長さ 600m×幅 5m=3,000㎡

令和元年度～4 年度 長さ 560m×幅 5m=2,800㎡

②令和 3 年度実績 長さ 600m×幅 5m=3,000㎡



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

農作物被害の軽減及び人身被害の防止が図られた。

(2) 継続性

持続的に緩衝帯整備を実施することで、農作物被害の軽減及び人身被害の防止が図られた。

(3) 普及性

草木や小径木、不要な雑木を伐採することで見通しが良くなり、野生獣の潜み場をなくし、農地への出没や侵入を抑止、農作物被害の軽減が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

草木や小径木、不要な雑木を伐採したことで見通しが良くなり、野生獣の被害対策に繋がっている。

実施面積 長さ 600m×幅 5m=3,000 m²

(2) 課題

全体計画(平成30年度～令和4年度)では、年間で長さ400m×幅5m=2,000 m²を計画しているが、今後、立地条件の悪い箇所には電気柵が設置してあることから、不要な雑木等の伐採に多額の経費がかかる恐れがある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後は令和3年度に実施した箇所から緩衝帯整備を実施する予定であるが、年間で長さ600m×幅5m=3,000 m²を計画しているが、立地条件が悪い箇所では3,000 m²できない恐れがある。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

信濃町では、子どもをはじめとするすべての人が、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みとして、ウッドスタート事業を行っております。

令和3年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	信濃町
------	-----

No.	事業項目	事業名
	木を活かした力強い産業づくり	ウッドスタート事業
事業費 646,030円 (うち支援金: 646,000円)		

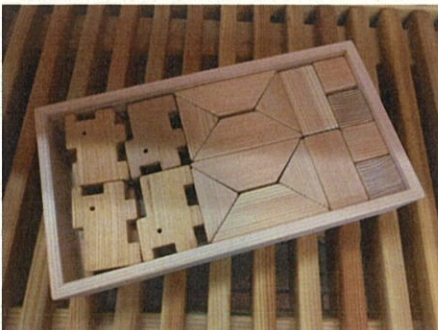
事業目的

黒姫山をはじめ北信五岳に囲まれた信濃町は、その面積の74%を森林が占め、森林は遥か昔から信濃町にきれいな水、澄んだ空気を恵んでくれています。人はそんな森林に護られ、また森林を守りその生を繋げてきました。

そのような森林の木材で作られた玩具を使って遊び、子供の頃から木のぬくもりを感じることによって、森林や自然を大切にする心を育み、人も自然の一員であることを実感できる「木育(もくいく)」を親子で始める取り組みを進める。

事業内容

- (1) 実施場所 : 信濃町一円
- (2) 対象者 : 信濃町内で生まれた新生児へ贈呈
- (3) 実施方法 : 町内産の木材を利用した玩具を作製し、親子に贈呈する。
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ① 全体計画(令和2年度～令和4年度) 約100個作製
 - ② 令和3年度 45個作製



事業効果

(1) 事業実施による効果

木材を利用することで森林の手入れや再造林も進み、木材は、持続可能で環境にやさしい資源であり、暮らしの中に木を取り入れることは、環境を守るために大きな役割を担うこととなります。

(2) 継続性

子供の頃から木材に親しみ親子で森林の大切さを継続的に育んでいくことが期待できる。

(3) 普及性

町内の新生児と親に対し、このような取組みをすることによって、地域住民の身近なところでの木材利用となるため、PR効果は高い。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

令和3年度事業として、町内産の木材を利用した玩具を45個作製し、親子に贈呈することができました。

(2) 課題

すべて手作りと言うこともあり、作成には相当な時間と労力を要します。仕上げに関連したやすり掛け等については、町内の介護施設等高齢者に作業をお願いしている部分もあります。今後についても、思いのこもった玩具の製作ですので、より町内多くの方々の力を借りて事業を継続したい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する。

事業を継続する

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯綱町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の緩衝帯整備
事業費		706,200 円 (うち支援金: 631,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

農地に近い里山で野生鳥獣の出没が多く、農作物被害が多発しており、課題となっている。

(2) 本事業の目的

農作物被害を防ぐため、緩衝帯整備(間伐・藪払い)を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所: 倉井地区

(2) 対象者: 飯綱町(地区住民及び地区耕作者を主体)

(3) 実施方法: 町が業者に依頼し緩衝帯整備(間伐・藪刈り)を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~令和 4 年度)町内 5ha(1ha×5 年)

②令和 3 年度実績 倉井地区 5,000 m²



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

集落や農地に近い里山の目に見える部分の緩衝帯整備(間伐・藪刈り)を実施することで、野生鳥獣が出没しにくい環境をつくり、被害防止に繋げる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

農作物に対する野生鳥獣被害は、森林との隣接地を主体に飯網町全体に及んでおり、継続し実施する必要性がある。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

農作物に対する野生鳥獣被害対策は、住民にとって大きな課題であり、集落周辺の見える場所で実施することにより住民へのPR効果は高い。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

事業実施場所周辺での野生鳥獣による農作物被害の軽減に期待したい。

地域の課題となっている、野生鳥獣被害対策を住民の身近な個所で実施することはPR効果が高い。

(2) 課題

野生鳥獣との共存を含め、野生鳥獣被害対策は町内全体の課題であり、町内全体に対する引続き対策の実施が課題。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

予算の範囲内で継続して実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小川村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	木製バス停製作事業
事業費 894,300円 (うち支援金: 575,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

森林を地域が持続的に管理していくためには、地域の消費者が求める木材を地域で生産し活用する「地消地産」の取組を推進することが必要である。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

間伐材の普及啓発を行うため、間伐材を利用した木製バス停を本村の県道沿いの初引地区へ設置することにより、通行者及び観光客や地域住民の注目を浴び、木の温もりを意識することで、県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者(将来の木の使い手)づくりにつなげる。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 : 小川村大字小根山(初引地区)

(2) 対象者 : バス停利用者

(3) 実施方法 : 県産材を利用したバス停を製作して設置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 年度～令和 4 年度)

平成 30 年度: にこにこ保育園 キッズハウス等

令和 元年度: 木製バス停・ベンチ製作

令和 2 年度: 林りん館 ウッドボイラー購入

令和 3 年度: 木製バス停製作

令和 4 年度: 小川小学校 裏山ランド整備 木製遊具等

②令和 3 年度実績

木製バス停製作設置 1 棟

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

間伐材利用の推進、間伐材利用の啓発、癒しの場の提供、県産材資源のPR、森林税のPR

(2) 継続性

地域のバス停は幅広い世代が利用することから、県産材を使うことにより、木の温もりを体験できる空間を提供できる。さらに県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者(将来の木の使い手)づくりにつなげる。

(3) 普及性

主要県道沿いの施設になるため、県内外から施設が注目されることが期待できる。幅広い世代が利用することから、地域住民の利用者拡大につなげる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

木製バス停を設置することにより、雨風をしのぐ場所を提供することにより、県産材と触れ合う時間が増える。また、待ち時間も安全にバスを待つことができる。

地域住民等に対して木のぬくもりを与えることができ、県産材のPRができる。

(2) 課題

今回は、地区要望により事業目標の全体事業計画を変更したが、建物を長期的に維持管理するためには、地域の理解が必要である。県産材の利用量は一時的に増加するが、継続して利用することができない。

(3) 今後の取組方向(今後の事業実施見込について記載)

今後は、県産材の有効活用として、保育園及び小学校への木製遊具等の整備を検討していきたい。

小川村 バス停留所

